

指定校番号	29044	学級活動		生徒会活動	○	学校行事		中学校用
-------	-------	------	--	-------	---	------	--	------

平成 29 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	安芸高田市立吉田中学校	校長	松本 貴文	生徒指導主事	三宅伸之
-----	-------------	----	-------	--------	------

取組事例名 『縦割り班清掃』

取組のねらい 『無言清掃の徹底を図る』

今年度から生徒指導の目標を「当たり前のことを普通以上にやり切る『凡事徹底』」とした。そこで、昨年度スタートした上級生が自覚を持ち、グループのリーダーシップを取ることで自信を持たせることを目的とした縦割り班清掃を発展させて 10 分間すべての生徒が無言で清掃することを定着させるまで取り組むこととした。



身に付させたい資質・能力

- 自己肯定感 諦めずに粘り強く取り組む力
(我慢する心…清掃時間、担当の仕事を徹底してやり遂げる。)
- 課題発見・解決力 自ら課題を見出し、解決しようとする力
(気付く心…掃除場所を見て、汚れているところに気付く。)
- 協働性 他者と協働し、課題を解決しようとする力
(仲間を大切にする心…仲間と協力して清掃活動ができる。)



取組の具体的内容 『生徒のリーダーによる清掃活動の活性化』

学期はじめに掃除ミーティングを行い、292人の全生徒を30グループに分けて、グループリーダー1名、副组长リーダー1名を中心に目標の設定し、掃除場所を確認し、掃除の仕方を確認した上で役割分担を行わせた。

通常の清掃時間は生活委員会の放送の指示により、清掃場所にリーダーを中心に集合させ、黙想を行い気持ちを切り替え、清掃活動を無言で行うようにさせ、最後に終わりの会を行い、掃除点検カードに各自の評価を記入させている。



取組の課題 『個人評価の適性化』・創意工夫 『グループ活動の活性化』

取組の課題

掃除場所 2～3 か所につき 1 名の担当職員がおり、生徒のリーダーといっしょにグループのメンバーの個人評価をつけているが、リーダーを育成して将来的には生徒が相互評価できるようにするために、個人の評価基準の内容を生徒が判断しやすい内容に少しずつ改善していく。

＜評価カード＞

評価	今日の評価(メン)				
29年 2月 2日(金)	入試	S	A	A	S
5日(月)	S	A	A	S	S
6日(火)	S	おひさ	A	S	S
7日(水)					
8日(木)					

創意工夫

職員がグループ編成を行う際に、メンバーの組み合わせについては学年を超えて何度も意見交換を行い、リーダーの生徒がリーダーシップを発揮しやすいように、また異学年間の人間関係を様々配慮しながら編成している。

<ルーブリック評価>

生活目標のルーブリック評価	
S	10分間時間いっぱい決められた場所を無言清掃できる。自分の担当が終わっても、他のメンバーを手伝い、気づき掃除が協力体制◎ 時間厳守◎ 掃除の完成度◎ 無言清掃◎
A	時間を守り掃除時間(大半)決められた場所を無言清掃できる。協力体制○ 時間厳守○ 掃除の完成度○ 無言清掃○
B	自分の役割を果たして、決められた場所を概ね清掃活動できる。協力体制△ 時間厳守○ 掃除の完成度△ 無言清掃○
C	一応自分の役割を果たして、決められた場所を一応清掃活動できる。協力体制△ 時間厳守△ 掃除の完成度△ 無言清掃△

取組の成果(効果) 『異年齢の人間関係による緊張感』

学年を超えて異年齢のグループを編成しており、そこには人間関係の微妙な緊張感が生まれている。それが自分の役割をまっとうし、責任を果たす結果につながってきている。縦割り清掃への肯定的評価は生徒アンケートが85.3%で、職員アンケートにおいても91%以上の評価が出てきている。



今後の展開 『生徒会の自治活動の一貫として発展させる!』

リーダーの意識レベルをさらに向上させるために、リーダーの生徒を対象の効率的な清掃の仕方を研修したり、他校の先進的な取組を学んだりする機会を持たせる。生徒の中に少しずつリーダーシップが取れる生徒を育て、増やしていくことで、生徒会が縦割り班清掃を自治活動の一貫として行える条件整備を行っていく。



他校へのアドバイス 『清掃場所の広さと生徒数のバランス』

この取組は、一定の清掃場所の広さに対して、適切な数の生徒を配置して、目的意識を持たせて、一人ひとりの生徒が持っている力を出し切らせることが成功の秘訣である。